

令和6年度教育課程特例校編成の方針等の公表及び報告について

令和6年度教育課程特例校編成に関する実施結果について、自己評価、学校関係者評価、外部評価は以下のとおりであった。

1 自己評価について

①英検の推奨・実施

受検を希望する児童が年々増えている。合格率も高く、児童の意欲と自信につながっている。

②スピーチコンテストの実施

6年生全員参加の予選で選ばれた12名が物語の暗唱に挑戦した。中学校の校長先生、英語教員、ALT、教育委員会の指導主事に審査員をお願いした。児童の表現力の高まりが見られた。また、5年生児童に参観させ、次年度につなげることができた。

③ESGの実施

指導の積み重ねにより、点数がアップしている。

④パフォーマンステストの実施

各単元後に、自分の考えを英語で話す場を設定した。児童の能力やスキルを適切に評価することができた。また、児童も見通しをもって学習に取り組むことができた。

⑤異国の文化を知る機会の設定

Easter, Halloween, Thanksgiving等の文化を授業や掲示物で紹介し、異国の文化・風習を身近に感じられる雰囲気づくりに努めた。児童は楽しみながら異国の文化に触れていた。

⑥指導カリキュラムの改訂

各学年の発達段階や落ち込みのある内容を考慮し、カリキュラムを見直しながら、指導している。児童一人一人の読む・聞く・話す・書く等のスキルアップにつながっている。

【課題と展望】

■学校で培ったコミュニケーション能力を活用する場の設定

海外の学校とオンライン交流をしたり、インターナショナルスクールの取り組みを実施したりすることが考えられる。

■保護者へ発信していく取組

英語教育への取組についての保護者の理解が十分ではない。今後は、通信等で情報発信し、家庭との連携強化に努めていく必要がある。

2 学校関係者評価について

【児童の主な感想】

- ・パフォーマンステストは、最初恥ずかしかったけど、何回もやっているうちに慣れてきて、自信ができました。スピーチコンテストに出てみたくなりました。
- ・英語が好きになってきたので、英検を受けてみたいです。
- ・英語に興味がでてきたので、家でも英語の学習を始めました。
- ・英語の勉強だけでなく、ハロウィンなど外国の行事や文化を知ることができて、楽しいです。

※感想から「児童の英語への興味・関心が高まった」「読む・聞く・話す・書く等のスキルの向上が見られ自信に繋がった」「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が向上した」といえる。

【保護者のアンケートから】

- ・「学校評価アンケート」の「学校は英語教育（国際理解教育）の推進に努めている。」という項目では、75%の保護者がポジティブ評価を示している。また、自由記述欄には、小学校の英語教育は評価するものの、「保幼小中一貫教育として考えると入学前から英語教育に取り組んだ方がよい」という意見もあった。

※保護者からの評価は概ね満足のいく結果だと考える。しかし、約13%の保護者は、「わからない」と答えているので、今後は保護者への情報発信に努める必要がある。また、保幼小中一貫という観点での取組（小学校のALTがこども園を定期的に訪問し英語の学習をする『きらきらタイム』）の情報発信もこれまで以上に進め、保護者の理解のもとで、より効果的な英語教育を目指していく必要がある。

3 外部評価について

【学校訪問の感想から】

- ・小学校6年生の英語の授業がよかった。授業の内容を文法的なものにするか、日常会話的なものにするかで、児童の意欲が変わると思うが、中学校に行ってから苦手にならないよう、これからも工夫して行ってほしい。
- ・すべての会話が英語でのやりとりになっていた。学力向上につながると感じた。
- ・東通村は英語に力を入れているので、引き続き楽しい授業をして行ってほしい。

※オールイングリッシュで英語を学習している様子を参観していただいた。参観者から上記のような高い評価を得た。また、小学校から中学校へのスムーズな移行を望む声もあった。組織として小中一貫英語推進部を設置しており、今後も小中の連携を強めていくことが重要である。